

棚の使いこなし術

アクション数が
0と1になる

飯田式 棚活用システム

ゆとりがあると
出し入れしやすい

ゆとりがあると
飾ったモノが映える

せっかく棚を設置したのに、上手く使えない…という声をお聞きます。でも大丈夫！この「棚活用システム」を知れば、様々なモノがアクション0と1で出し入れでき、使い勝手はぐっと良くなります。

オープン棚の場合

一枚の棚に小さいモノも大きいモノも置きたい場合、大は小を兼ねるので奥行きがある棚を選ぶことがあります。そんな時、取り入れたいノウハウです。それには、

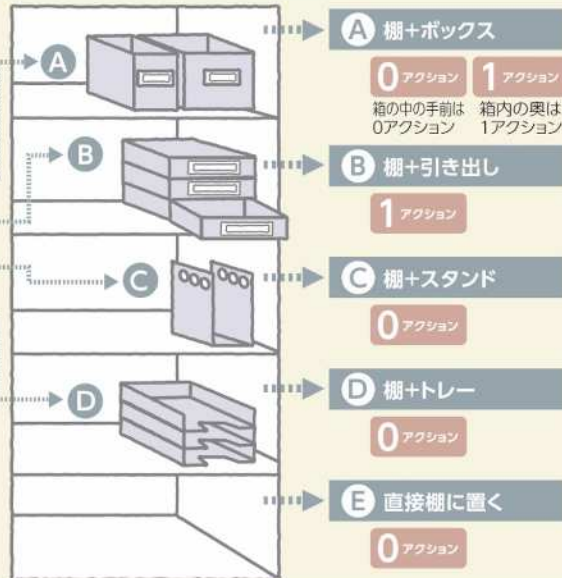
A ボックス

B 引き出し

C スタンド

D トレー(スタッキング)

の4種類の収納グッズを使います。



A 棚+ボックス

細々としたモノを出し入れしやすくするためには、同時に使う物をまとめて、蓋のないボックスに入れます。



■入れたら便利なモノ
細々としたモノ全般

入れ方のポイント

- ボックスのフタは基本的に不要です。フタがあるといたん棚から箱を取り出しフタを開ける…アクション数が多くなり、面倒です。
- 同じ目的で使う物を入れます。例えば荷造りに使うガムテープやびもハサミ、カッターナイフ、送り状などをまとめて箱に入れます。
- 入れ方は、すべて立てると見やすく取り出しやすくなります。
- 立てたモノが倒れないように、箱の中を、空き箱などを使って仕切ります。
- 箱の高さからその上の棚板までに15cmほどの余裕を持たせると箱の奥まで見えて、すぐとれます。
- 箱の中は、使用頻度が多いモノを手前に入れます。



15cm前後ゆとりがあると中身が見えて出し入れしやすい。フタは不要!アクション数を減らしましょう。



中を仕切って一つ一つのモノに指定席を作ります。

B 棚+引き出し

薬など、ひと並べにして選びやすくしたいモノには引き出しを使います。

■入れたら
便利なモノ
常備薬、裁縫道具、パーツ、工具など



入れ方のポイント

- 入れるモノの高さに合わせて引き出しを選びましょう。例えば、常備薬の引き出しは湿布薬が立つ高さ、また裁縫道具の場合は糸の色などが一目でわかる浅い引き出しを選びましょう。
- 引き出しの中もボックス同様、ごちゃごちゃにならないように、仕切ります。



C 棚+スタンド

立てると探しやすく取り出しやすくなるモノは立てます。しかし、倒れるのでそれを支えるためにスタンドを使います。



■使ったら便利なモノ
本、書類、紙袋、トレー(キッチン)、バッグ類、洗濯物干しピンチハンガーなど自立しないモノ

入れ方のポイント



書類や紙袋などは立てると取り出しやすくなりますが、倒れるのでそれを支えるにはスタンドが必要です。おすすめはL型です。通常のL型ブックエンドでは中身が倒れると同時にズルズルずれることがあるからです。また、2個使用すれば多くのモノを立てられます。クローゼットの中ではバッグ、キッチンではトレーやランチョンマットなども立てると使いやすくなります。



D 棚+トレー

コピーペーパーや色紙など立てると曲がって困るモノはトレーに平置きします。



■入れたら便利なモノ
コピーペーパーや資料、郵便物の一時置き、お店でのパンフレットなど

入れ方のポイント

- 1枚の棚に平置きしたい紙類などがたくさんある場合、スタッキングトレーを使うのが有効です。棚板の枚数を増やすと同じ効果があります。

